

育芸

円満復帰は事務所の力量にかかっている

深田恭子



このところ、心配というか気になる女優さんの動きが続いた。

深キョンこと深田恭子(38)と熊田曜子(39)の同年生の2人だ。内容についてはまったく違つが、今後がどうなっていくのか、方向性や結論にしばらく時間がかかると思われる。このプロダクションの真価が、なんとこそ、所属している、問われると思うのだ。

間がかかると思われる。このプロダクションの真価が、なんとこそ、所属している、問われると思うのだ。

「そのそれぞれの会社がある。そしてキチンとした広報の担当者がいて、僕らはこの担当と接することが多いのだが、できるだけ丁寧な事実関係を伝えようとしてくれる。」

だからこそ、深田の現在の状況について、「適応障書で7月期のドラマを降板、療養に入ってから期間がわからない」と正直なところを発表したのだらう。深田恭子はビッグネームであり、連続ドラマに出演すれば、熊田の方には離婚問題だ。夫が熊田に対する暴力行為で逮捕され、先月20日に釈放された。熊田は被書届を取り下げていないのが現状で、それだけでも離婚の方向で動いていることがわかる。その後、夫の反論や言い分が週刊誌に出た。

(金曜掲載)

話題の最前線を行く

成功のヒミツ 失敗しないコツ

<307>

は経済効果や雇用を生み注目を集めている。コロナ禍以降も売り上げは落ちていないとオーナーの松嶋匡史さん。「通販が5%から20%に伸びて純利益が増えました。売り上げの内訳は、通販2割、パン店などへの販売2割、島の創業のきっかけは新婚旅行で訪れたパリ。食品店で手に取ったのがコンフィチュール。日本にはない独自性に魅せられた。」

匡史さんは、智明さんに島の豊富な果実を使うジャム作りを提案。夫妻で国内のジャム店を巡って試作を繰り返した。販売最初はネット通販と店舗での直販から始め、山口、広島のパン店へと広がった。



松嶋匡史さん コロナ後も好調



ジャムを煮込んでいる

産物を生かし経済効果と雇用を生んだ

瀬戸内ジャムズガーデン

山口県の離島、瀬戸内海の周防大島で2003年創業の「瀬戸内ジャムズガーデン」。島で栽培されるブルーベリー、柑橘、イチジクなど多彩なコンフィチュール(果実の形状を残したもの)、ジャムやマーメイドなどを手作りしている。島の農家約60軒と連携して作られる季節感あふれるジャムは180種類。売り上げは年1億円。従業員は正社員・パート・アルバイトを入れて26人だ。周防大島は人口1万5050人で8706世帯。1970年から



今年、新たなプロジェクトを立ち上げた。酒造免許を取得して、レモンチェッロ(レモンのリキュール)の製造を始めたのだ。

「これも通販が伸びています。将来はレモンの植樹から収穫、レモンチェッロ造りまで体験ができるようにして、島と長期的につながる観光を構築したい。」

松嶋さんはそう目標を語った。

南アで空

実際に小石ほどの、モンド状の鉱物が採れていることもあり、

海外仰天

- 懸賞クイ
- ※2482回
- △30の力ギ▽
 - 1...6月の第3日曜
 - ...
 - 4...虫の居所が最悪
 - ...かな
 - 6...温泉地に軒を連
 - 7...飛ばされた!
 - 8...酔って電車で乗
 - ...なことに
 - 10...騒音が迷惑なも
 - 12...相手との距離感
 - 13...買い物OK
 - 14...このオタマジャ
 - ...尾がない?
 - 18...食パンの周囲に
 - 19...気温がマイナス
 - 21...飲んべえの好物
 - 23...貼り付けアート
 - 24...移動したよ
 - 25...おいしいところ
 - ...ていく鳥
 - △タテのカギ▽

過疎高齢化の島

山口県の離島、瀬戸内海の周防大島で2003年創業の「瀬戸内ジャムズガーデン」。島で栽培されるブルーベリー、柑橘、イチジクなど多彩なコンフィチュール(果実の形状を残したもの)、ジャムやマーメイドなどを手作りしている。島の農家約60軒と連携して作られる季節感あふれるジャムは180種類。売り上げは年1億円。従業員は正社員・パート・アルバイトを入れて26人だ。周防大島は人口1万5050人で8706世帯。1970年から